平成１９年度事業実績報告書

学校法人　皇學館

Ⅰ．学校法人の概要

１．建学の精神

皇學館大学は、伊勢の神宮における長い神道研究の伝統を源流としていますが、明治15年、神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達によって、神宮の学問所である林崎文庫に開設された「神宮皇學館」を直接の起源としています。

明治33年に神宮祭主の賀陽宮邦憲王からいただいた令旨には、わが国の歴史に根差した道義と学問とを学び、それを実際の社会の中で実践に努め、文明の発展に貢献するという、まさしく本学の建学の精神が記されています。以来100年以上が経ちましたが、その根本精神は、現在も皇學館大学の中に脈々と受け継がれています。

近年、社会福祉学部（平成10年4月）や文学部コミュニケーション学科（平成12年4月）などを設置し、変化する社会状況や国際環境のありようへの対応に努力しながらも、この原点は揺らぎません。神道を根幹とし、誇りにあふれた国家社会を築かんと努めてこられた祖先の歩みを学んで、敬意を払い、そこから生み出された独自性に富む精神・倫理道徳や歴史・文化を継承し、その実現に努力することを目標として、日々教育と研究の推進に努力しています。

平成24年には創立百三十周年・再興五十周年の佳節を迎えますが、皇學館大学は以上のような建学の精神のもと、その特色ある教育・研究が、ますますその輝きを増すものと自負しております。

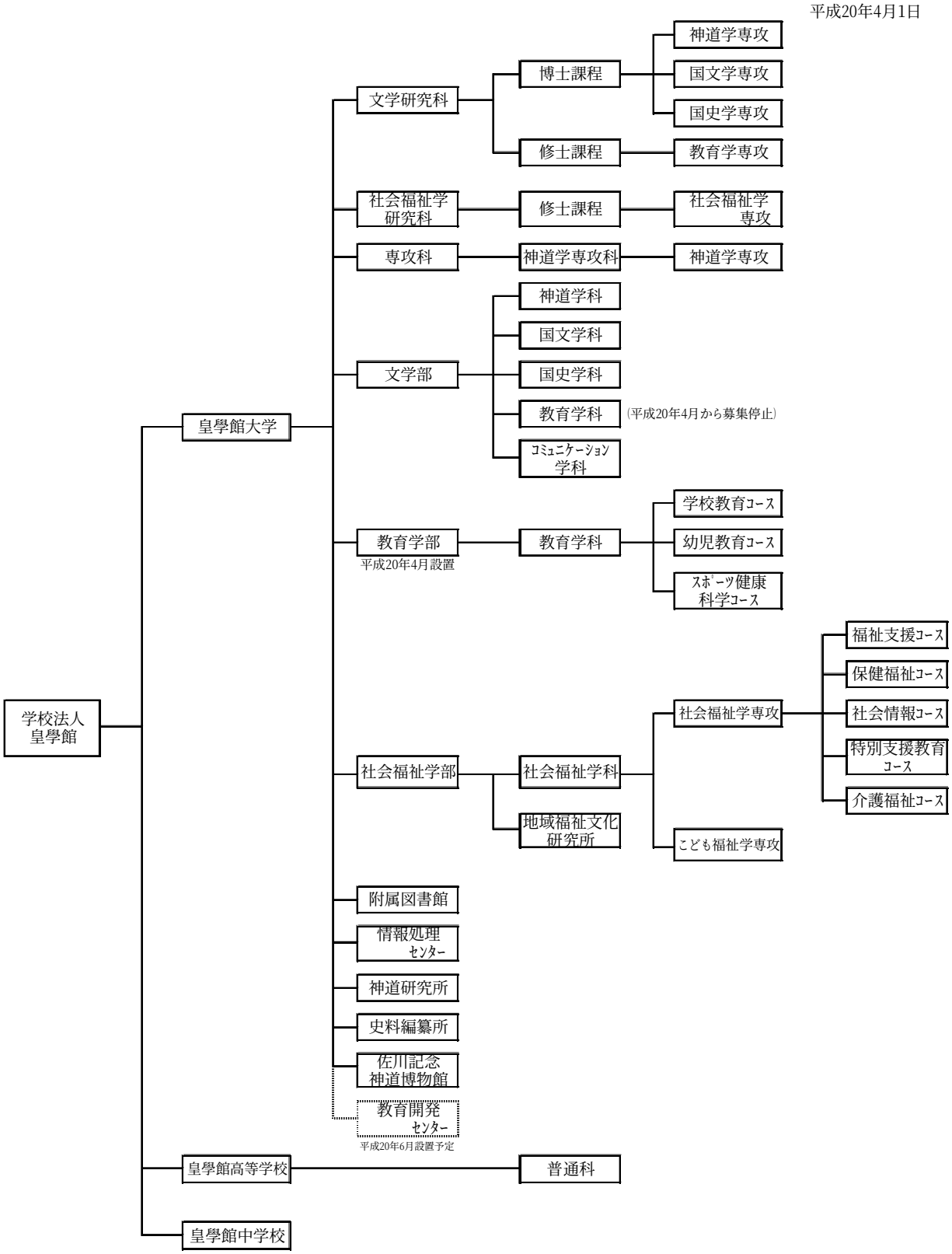
２．沿革（略年譜）

明治15年4月	神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達により、林崎文庫内に皇學館を創設
明治33年2月	神宮祭主本館総裁賀陽宮邦憲王より令旨を賜う
明治36年8月	内務省所管の官立の専門学校となる
昭和15年4月	大学令による官立の神宮皇學館大學に昇格
昭和21年3月	占領軍(ＧＨＱ)による神道指令により廃学
昭和27年8月	神宮皇學館大學再興期成会設立
昭和37年4月	皇學館大学開学(文学部国文学科・国史学科)
昭和38年4月	皇學館高等学校開校
昭和41年4月	大学院文学研究科修士課程(国文学専攻・国史学専攻)を設置
	皇學館女子短期大学を開設(昭和51年3月廃学)
昭和48年4月	大学院文学研究科博士課程(国文学専攻・国史学専攻)を設置
昭和50年4月	文学部教育学科を設置
昭和52年4月	文学部神道学科を設置
昭和53年4月	大学附置研究所として神道研究所・史料編纂所を設置
昭和54年4月	皇學館中学校を開設
昭和56年4月	神道学専攻科を設置

昭和57年4月	皇學館創立百周年記念式典を挙行
平成２年4月	大学院文学研究科修士課程(神道学専攻)を設置
平成10年4月	社会福祉学部社会福祉学科を設置
平成12年4月	文学部コミュニケーション学科を設置
平成14年4月	大学院社会福祉学研究科修士課程(社会福祉学専攻)を設置
平成16年4月	大学院文学研究科博士後期課程神道学専攻を設置
	大学院文学研究科修士課程教育学専攻を設置
平成20年4月	教育学部教育学科を設置
平成24年	創立百三十周年記念事業実施予定

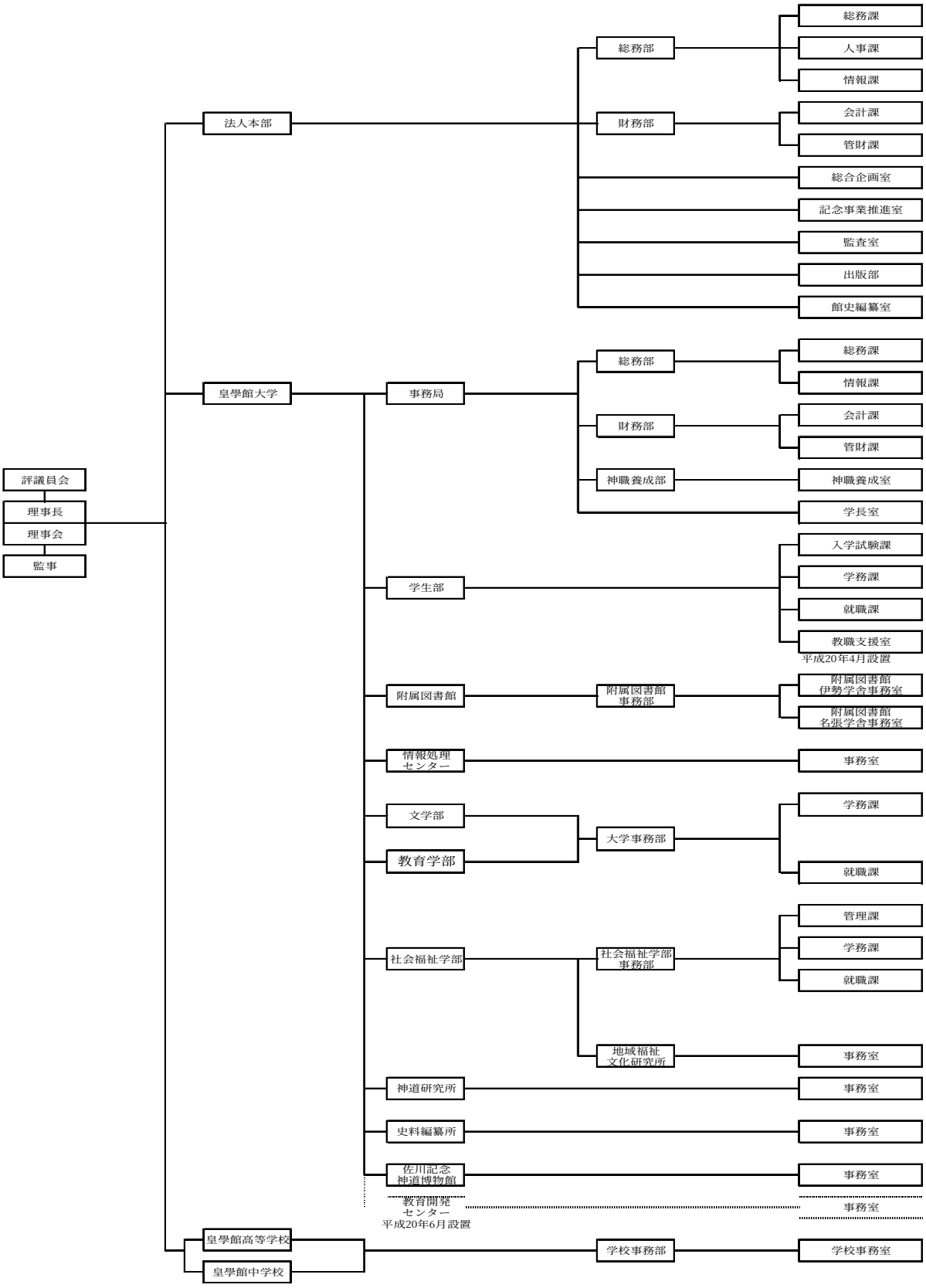
３．法人設置の教育研究機関

平成20年4月1日



４．学校法人の組織機構

平成20年4月1日



５．学生・生徒数等の推移（5月1日在籍者数）

（1）在学生数　　（各年度5月1日現在）

	在学生数			収容定員数			収容定員充足率		
年度	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20
文学部	1,990	2,024	1,919	1,570	1,620	1,500	126.8%	124.9%	127.9%
教育学部	―	―	245	―	―	170	―	―	144.1%
社会福祉学部	964	851	716	880	880	830	109.5%	96.7%	86.3%
合計	2,954	2,875	2,880	2,450	2,500	2,500	120.6%	115.0%	115.2%
大学院文学研究科博士後期	10	7	7	14	14	14	71.4%	50.0%	50.0%
大学院文学研究科博士前期・修士	44	31	23	34	34	34	129.4%	91.2%	67.6%
大学院社会福祉学研究科修士	11	15	10	20	20	20	55.0%	75.0%	50.0%
合計	65	53	40	68	68	68	95.6%	77.9%	58.8%
高等学校	1,256	1,150	1,171	1,200	1,200	1,200	104.7%	95.8%	97.6%
中学校	201	203	200	240	240	240	83.8%	84.6%	83.3%
神道学専攻科	33	31	31	10	10	10	330.0%	310.0%	310.0%
総合計	4,509	4,312	4,322	3,968	4,018	4,018	113.6%	107.3%	107.6%

（2）入学生数　　（各年度４月現在）

	入学生数			入学定員数			入学定員充足率		
年度	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20
文学部	519	531	369	430	430	310	120.7%	123.5%	119.0%
教育学部	―	―	245	―	―	170	―	―	144.1%
社会福祉学部	222	159	105	218	218	168	101.8%	72.9%	62.5%
合計	741	690	719	648	648	648	114.4%	106.5%	111.0%
大学院文学研究科博士後期	3	2	4	6	6	6	50.0%	33.3%	66.7%
大学院文学研究科博士前期・修士	20	8	11	21	21	21	95.2%	38.1%	52.4%
大学院社会福祉学研究科修士	8	6	5	10	10	10	80.0%	60.0%	50.0%
合計	31	16	20	37	37	37	83.8%	43.2%	54.1%
高等学校	405	361	421	400	400	400	101.3%	90.3%	105.3%
中学校	67	69	64	80	80	80	83.8%	86.3%	80.0%
神道学専攻科	33	31	32	10	10	10	330.0%	310.0%	320.0%
総合計	1,277	1,167	1,256	1,175	1,175	1,175	108.7%	99.3%	106.9%

（3）卒業（修了）生数

	卒業（修了）生	
年度	H18	H19
文学部	431	404
社会福祉学部	252	216
合計	683	620
大学院文学研究科博士後期	0	1
大学院文学研究科博士前期・修士	15	15
大学院社会福祉学研究科修士	2	9
合計	17	25
高等学校	452	388
中学校	66	67
神道学専攻科	32	31
総合計	1,250	1,131

６．進路状況（大学）

（１）大学

	年度	卒業生数	就職を希望した者	大学院等進学	就職を希望しなかった者	
					自宅学習・家事従事	その他
文学部	H18	431	354	30	23	24
		100.0%	82.1%	7.0%	5.3%	5.6%
	H19	419	363	25	18	13
		100.0%	86.6%	6.0%	4.3%	3.1%
社会福祉学部	H18	252	228	12	7	5
		100.0%	90.5%	4.8%	2.8%	2.0%
	H19	220	199	12	4	5
		100.0%	90.5%	5.5%	1.8%	2.3%

（参考）全国大学就職希望率 71.2 %　文部科学省調査結果（平成20年4月1日現在）より

	年度	就職を希望した者	内定者	内定先					就職未決定者
				学校	企業	公務員団体	神社	福祉医療	
文学部	H18	354	336	73	162	35	64	2	18
		100.0%	94.9%	20.6%	45.8%	9.9%	18.1%	0.6%	5.1%
	H19	363	332	79	161	42	46	4	31
		100.0%	91.5%	21.8%	44.4%	11.6%	12.7%	1.1%	8.5%
社会福祉学部	H18	228	225	2	120	18	0	85	3
		100.0%	98.7%	0.9%	52.6%	7.9%	0.0%	37.3%	1.3%
	H19	199	189	1	98	20	0	70	10
		100.0%	95.0%	0.5%	49.2%	10.1%	0.0%	35.2%	5.0%

（参考）全国大学就職内定率 96.9 %　文部科学省調査結果（平成20年4月1日現在）より

（２）高校

	年度	卒業生数	大学				短期大学		専門学校	就職	その他
			国立	公立	私立	皇學館	公立	私立			
高等学校	H18	452	25	7	203	99	2	28	59	7	22
		100.0%	5.5%	1.5%	44.9%	21.9%	0.4%	6.2%	13.1%	1.5%	4.9%
	H19	388	18	7	164	94	2	17	57	13	16
		100.0%	4.6%	1.8%	42.3%	24.2%	0.5%	4.4%	14.7%	3.4%	4.1%

	国公立合格者数		国立	公立
高等学校	H18	58	44	14
	H19	33	22	11

※「国公立合格者数」は、既卒者を含む

７．教職員数一覧

（各年度5月１日現在）

	本務教員			本務職員			兼務職員			計		
年度	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20
文学部	61 (4)	63 (5)	60 (7)	59 (4)	58 (5)	63 (14)	20	17	16	140 (8)	138 (10)	139 (21)
教育学部	― ―	― ―	7 (3)	― ―	― ―	0 (0)	―	―	0	― ―	― ―	7 (3)
社会福祉学部	37 (7)	38 (8)	39 (11)	16 (1)	16 (1)	16 (1)	1	1	1	54 (8)	55 (9)	56 (12)
高等学校	69 (16)	71 (16)	71 (17)	6 (2)	6 (2)	5 (1)	1	1	0	76 (18)	78 (18)	76 (18)
中学校	14 (4)	15 (5)	15 (3)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0	0	0	16 (4)	17 (5)	17 (3)
合計	181 (31)	187 (34)	192 (41)	83 (7)	82 (8)	86 (16)	22	19	17	286 (38)	288 (42)	295 (57)

※特任教員、客員教員、期限付助教及び助手、高等学校･中学期限付常勤講師、嘱託職員を内数として（　）内に表示

８．役員等の一覧

（１）役員（理事・監事）　　（Ｈ２０年３月３１日現在）

理事			監事		
定数	実数	任期	定数	実数	任期
13～17	16	2年	2～3	2	2年

【役員の内訳】

理事・監事	常・非常勤	氏　　名	兼　　職　　名
理　　事	常　　勤	上杉　千郷	理事長
		伴　五十嗣郎	大学長
		宗林　正人	総務・人事・財務担当
		大竹　辰也	大学　法人事務局長
		大島　謙	高等学校長　中学校長
		櫻井　治男	大学社会福祉学部長　教授
		清水　潔	大学文学部長　教授
		圓藤　恭久	神職養成部　部長
	非　常　勤	小串　和夫	副理事長　熱田神宮宮司
		村田　仙右衛門	角仙合同（株）代表取締役会長
		髙城　治延	神宮少宮司
		鈴木　寛治	大神神社宮司
		高山　亨	乃木神社宮司
		上山　善紀	近畿日本鉄道（株）相談役
		亀井　利克	名張市長
		森下　隆生	伊勢市長
監　　事	非　常　勤	山中　隆雄	（株）勢乃國屋相談役
		賀勢　弘	多度大社名誉宮司

（２）評議員

評議員		
定数	実数	任期
45～64	53	2年

９．諸会議等の開催

（１）法人

会　議　名　称	開催回数
理事会	４回
評議員会	３回
常任理事会	４回
常勤理事会	１９回
学内評議員会	３回
神社庁長懇談会	１回
協議員会	１回

（２）大学・大学院

会　議　名　称	開催回数
大学評議会	１１回
文学部教授会	１６回
社会福祉学部教授会	１８回
大学院委員会	４回
文学研究科委員会	１５回
社会福祉学研究科委員会	１４回

Ⅱ．平成19年度の事業概要

１．はじめに

規制緩和と少子化等の大学を取り巻く環境が激しく変化し、厳しい競争環境が進む中で、本学は学園のより一層の充実と発展を図るため、「建学の精神」を具現化・追求し続けることが、他大学にはない特色や差別化につながり、社会からの評価も高まるものと確信し、様々な難局を乗り越えるべく教職員の意識改革を始めとした多面的な改革に取り組みました。

平成 19 年度においては、明確化した「教育理念及び教育目標」に沿った教育研究に関する様々な課題を改善するため、大学においては建学の精神・大学の目標に対する教職員の共通認識のもと、学部学科の再構築、カリキュラム、教員組織、学力向上のための初年次導入教育、就職支援、学生活動支援を始めとした教育研究活動に関する諸施策を中心に計画・実施しました。

高等学校・中学校においては、教職員に平成 19 年度事業計画を明示し、「建学の精神」の徹底・教職員の資質向上と情報の共有化等の事業計画を着実に推進することができました。また、「文武両道教育」の方針のもと高等学校教育の活性化と魅力化にもつなげることができました。

２．主な事業の進捗状況

◎法人部門

(1) 皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業の継続

① 募財活動の推進

募財状況（平成 20 年 3 月 31 日現在）　　（単位：円）

申込件数	申込金額	納入金額
4,549	1,078,571,000	975,968,000

② 継続事業の推進

(ｱ)「続日本紀史料」の編纂･刊行

９巻刊行しました。10巻を準備中で、来年度刊行予定です。最終巻（20巻）完成を平成24年5月目標としています。

(ｲ)「訓読注釈 儀式践祚大嘗祭儀」の刊行

上巻、中巻、下巻の３巻を刊行予定です。訓読化はほぼ完了しました。平成 23 年度刊行を予定し、準備を進めています。

(ｳ)「伊勢神宮の総合的研究」の策定

平成20年度からの実質的な活動に向け、部会構成員の見直しを行いました。昨年行われた「神宮研究の現状と課題」でシンポジウムを開催し、3月末の『神道研究所紀要』に掲載しました。

(ｴ)「館史」の編纂

百三十周年史を「総説」･「各説」･「資料」･「年表」･「写真」の５部構成とし、A5版で６冊刊行予定し、平成24年度に向け準備を進めています。

(ｵ)「社会福祉学部と地域社会との連携及び神道福祉に関する総合的研究」

「地域拠点づくりプロジェクト」･「神道福祉文化研究プロジェクト」の二本柱により、７ヶ年計画に基づき推進中です。平成20年度の学部創設十周年記念事業と関わりを持たせ、更に充実していく方針です。

(ｶ)伊勢キャンパス新１号館建設計画

平成 19 年 6 月の記念事業建設委員会において、創立百三十周年・再興五十周年記念施設設備整備計画を推進するため小委員会の設置が承認されました。小委員会は、新一号館建設、新情報処理センター、学生厚生施設、能楽堂設置の４つのプロジェクトに分別され、新一号館建設及び学生厚生施設検討プロジェクトが合同で検討を開始しました。その結果、平成 20 年 2 月までの間に設計業者と５回の会議を重ね、概ねの校舎規模が決定され、建設業者を選定する入札に至りました。現在基本計画を策定中です。校舎完成は、平成 22 年 9 月を予定しています。また、学生厚生施設検討プロジェクトにおいて、食堂の増設を検討した結果、増設が必要不可欠との結論に至ったため、現食堂２階に接続する階段を設置し、テーブル席 160 席を設け昼食時の混雑解消を図ることとし、平成 20 年 4 月に工事を完成しました。

③ 遷宮奉賛講演会の継続

平成19年度は、名古屋（熱田神宮文化殿で6回・参加人数1,120人）・神戸（生田神社で5回・参加人数1,145人）・和歌山（和歌山県神社庁で１回・参加人数200人）・長野（長野県神社庁で１回・参加人数600人）・埼玉（埼玉県立歴史と民俗の博物館で３回・参加人数200人）・大阪（大阪府神社庁で４回・参加人数880人）等で開催されました。年間20回開催され、参加人数合計は延べ4,375人となり、年々聴講者も増え、遷宮に対する関心の高さが伺えました。大阪会場については当初予定にはなく、大阪府神社庁から要望を受け、開催を決定しました。大阪では木遣りの実演が行われ、神戸では聴講修了証を授与するなど各会場で共催側にも大変ご協力をいただきました。平成20年度は島根県出雲会場（ビックハート出雲・島根県立古代出雲歴史博物館）を予定しており、計５回の講演会は出雲ケーブルテレビ放映、聴講修了証授与も予定されており、盛大に執り行われる予定です。

(2) 皇學館高等学校創立五十周年･皇學館中学校創立三十五周年記念事業の推進

平成25年度に高等学校が創立五十周年を迎えるにあたり、周年事業として同窓会を中心に保護者会・後援会の協働により、記念事業推進委員会及び各種実行委員会を設置し、下記の計画を着実に進めています。

① 高等学校創立五十周年・中学校創立三十五周年を記念する記念誌発行

記念誌と関係者全員に配布するDVDの２種を、制作費概算6,000,000円で平成24年3月発行を目指して、準備を進めています。

② 記念式典・記念行事の計画

実施は、平成 25 年４月 30 日とし、対象者は、生徒・教職員・法人役員・同窓会・保護

者会・後援会役員とします。式場、講演等の詳細については、検討を進めています。

③ 募財活動の推進

募財活動実行委員会は、総目標額20,000,000円のうちの、６割の12,000,000円を同窓会の担当と決定し、平成20年度以降も、同窓会を主に尚一層の募財活動を引き続いて実施します。

◎大学部門

(1)大学の運営

① 大学の改組

(ｱ) 教育学部の増設

文学部教育学科で展開してきた教育内容を基礎としつつ文学部教育学科（入学定員120人）を改組し、社会福祉学部からの定員振替（50人）により、入学定員170人の教育学部教育学科を増設するため、文部科学省へ平成19年4月に教育学部設置届出書を提出（高等教育局大学設置室）、同年6月25日に受理をされました。受理を受けて、同年7月に既存教職課程（小学校・幼稚園）・新規教職課程（中高保健体育）認定申請書を提出（初等中等教育局教職員課）し、平成20年2月に認可を受けました。また、幼保一元化を実現するために、厚生労働省へ平成19年9月に指定保育士養成施設の指定に関する申請書を提出し、平成20年3月に認可を受けました。

(ｲ) 社会福祉学部の専攻制導入

社会福祉学部社会福祉学科に専攻課程（社会福祉学専攻、こども福祉学専攻）を設置（入学定員 218 人から 168 人に定員減）するため、文部科学省へ平成 19 年 4 月に学則の変更届出をいたしました。また、同年 6 月に社会福祉学部新規教職課程（幼稚園）認定申請書を提出し、教育学部同様平成 20 年 2 月に認可を受けました。

(2) 大学運営組織の強化

① 学長補佐機関の設置

学長の教学に関わるリーダーシップ強化の実現を補佐するために、平成 19 年度から文学部より教授 2 名、社会福祉学部より教授 1 名、計 3 名の学長補佐を学長が指名し、理事長が任命しました。学長補佐の職務は、平成 19 年 4 月 1 日施行された「皇學館大学学長補佐職の設置に関する規程」第 4 条（職務）「学長補佐は、学長の指示及び諮問に応えて、施策の立案、連絡調整及び推進を補佐する。」規定されており、広範にわたっています。

平成 19 年度には、補佐会議を 19 回開催し、第 2 回会議で学長から諮問された検討事項、中期計画策定委員会・自己点検評価委員会からの指摘・検討事項等の対応について審議しました。学長に対し、平成 19 年 5 月 14 日付けで「学長補佐会議からの提案」、平成 20 年 2 月 5 日付けで「教育開発センター（仮称）の設置・教職支援室（仮称）の設

置」について提言し、留学生受け入れ体制の整備、高大連携の推進、学部・学科の教育研究上の目的の明確化、文学部将来構想委員会の設置、ＦＤ活動の推進等を具体化し、実施しました。

(3) 大学教育改革

① 初年次導入教育の実施

初年次導入教育の概念と目的は、新入生が大学への帰属意識を高め、大学生活などに早期に順応するための学習準備プログラムであり、全教職員が連携して一斉に実施する統一的な教育プログラムです。この実施について各学部において次のとおり取り組みました。

文学部においては、本格的な初年次導入教育の実施のため、平成 20 年度カリキュラム改訂において具体的な実施科目として「初学び（ういまなび）」（春学期集中・１単位）を入学時に設定しました。この科目は指導教員制を最大限に活用し、指導教員が指導学生 10 数人を受け持ち、少人数において懇談等を行い、その中で本学建学の精神を理解させることで本学への帰属意識を高めるとともに、大学生活への不安などを取り除き、順応を図ることができます。また、この科目は平成 20 年度設置される教育学部との共通科目としており、両学部に共通して実施されます。この実施に先立ち、平成 19 年度においては、試行として単位に認定されない形で４月入学時に実施しました。結果は、本学の理解が進み、また、入学時の不安が和らいだとのアンケート結果が出ています。

社会福祉学部においては、平成 18 年度から学生スキルの向上を図り教養必修科目「キャンパス・セミナー」を毎週水曜日Ⅱ講時において開講することにより、退学者数の抑制などに効果を上げてきました。しかし問題点として、その意義・目的・方法の不徹底・不統一が指摘されていました。そこで平成 19 年度には、担当教員の意識統一や、内容の順序の工夫を図るなどを行い、学生授業評価アンケートにおいても、その効果を意識した学生からの回答を、早期（春学期）から得ることができました。

さらに、教養必修科目「基礎演習（教養）」において学習スキルを、「基礎演習（表現）により言語表現の基礎力向上をはかり、「キャンパス・セミナー」との有機的な連携により、学生生活や学習に対する新入生の不安を払拭することができました。

② 学習支援体制の確立

(ｱ) 高校教育課程授業の補習

(ｲ) 国語表現・外国語・情報処理の３分野の学習に関するバックアップ授業

(ｳ) カリキュラムにおける科目の精選と充実

学習支援の３つの柱として、上記のことを事業計画として掲げ、平成19年度において実施した事業は次のとおりです。

文学部においては、平成20年度設置の教育学部との共通科目としてカリキュラム改訂を計画し、平成18年度に引き続き検討を行ってきました。その結果、従来の教養科目よりも本学建学の精神の具現化につながる科目を充実させ、科目の精選と充実を図ること

ができました。これは平成20年度から実施します。また、高校教育課程授業の補習の一端として、平成17年度より実施している入学時の英語プレースメントテストによる英語クラス編成に加え、さらに国語表現等の学習のバックアップとして、平成20年度より日本語プレースメントテストを本格的に導入することとなりました。これに先立ち平成19年度9月に１年生を対象に試行を行い、その結果データを分析して平成20年度からの本格的実施に備えています。

社会福祉学部では、平成19年度において習熟度別クラス編成や、補習授業の充実、及び学習相談の実施により、学習支援体制の充実を図りました。

まず、入学時に国語及び英語の習熟度チェックテストを実施し、その結果により１年次配当科目「現代英語Ⅰ・Ⅱ」及び「情報処理Ⅰ」のクラスを習熟度別に編成することで、授業効率の向上を図りました。さらに、「現代英語Ⅰ」及び「基礎演習（表現）」等の科目において補習授業を実施し、また「情報処理Ⅰ」では春学期の習熟度により秋学期に選抜クラスを編成するなど、習熟度の高・低それぞれに対する配慮を試みました。

次に、従来から社会福祉学部ＦＤ推進委員会において検討されていた「学習支援室」を平成19年7月より開室し、専任教員が交代で待機して個別学習相談にあたることで、学生の学習意欲及び学力の向上を目指しました。

これらの取り組みにおける反省を基に、平成20年度に向けて、各種の学習支援体制を有機的に構築することを検討しました。

③ カリキュラム改革

文学部においては、平成20年度設置の教育学部との共通科目としてカリキュラム改訂を行います。具体的には、現行の「日本学」、「地域文化論」に代えて、「皇学」、「伊勢学」を開設し、より鮮明に本学建学の精神の具現化の科目として位置づけ、また、本学の位置する伊勢の地に深く根ざした歴史・文化を体験的に学べるようにしました。さらに「伝統の心と技」の科目を新設し、この中で日本の伝統文化を学び、日本人としての立ち居振る舞いを体得できる「茶道」、「和歌」、「能」、「伝統建築」、「伝統工芸」、「マナー」などの講座を設け、実践を中心に行っていく予定です。また各学部各学科の専門科目についても、平成19年度にはコース制実施にともなう科目の精選が行われ、平成20年度から実施されます。

社会福祉学部では、平成20年度における改組（「こども福祉学専攻」や「社会福祉学専攻」５コースの設置）に向けて、教養教育のあり方や、卒業後の進路に応じたカリキュラムの体系化の検討を行いました。

その結果、平成20年度入学生の新カリキュラムにおいては、従来の「教養科目」を、初年次教育（修学スキル・基礎学力の向上及び自校教育）を担う「基礎科目」と、社会人として通用するための一般教養習得のための「教養科目」に区分し、各科目の性格・目的を明確化するとともに、就職活動や卒業研究への取り組みも鑑み、効果的な「教養科目」のセメスター配当を行うこととしました。さらに、資格取得や短期留学による単位認定科目

を設置するなど、学習意欲のさらなる向上を図りました。

また、専門科目においても、入学後の学生のモチベーション低下を防ぎ、自身のキャリア設計を容易にするため、１年次から専門教育への導入科目を配当するとともに、２～３年次への科目集中の緩和を図るために専門科目の配当年次を見直しました。

④ 大学教職員研修の実施

下記の通り、学内外の研修を実施・参加しました。

■ 学外

区　分	延べ参加人数	主な参加研修機関
教　員	13 名	社団法人日本私立大学連盟、財団法人大学コンソーシアム京都、 日本リメディアル教育学会、財団法人大学セミナーハウス　ほか
職　員	45 名	文部科学省、社団法人日本私立大学連盟、 社団法人私立大学情報教育協会、財団法人大学コンソーシアム京都、 日本私立学校振興・共済事業団　ほか

■ 学内

区　分	延べ参加人数	主な研修
教職員	310 名	新任職員研修 「建学の精神」ほか
		科学研究費補助金説明会 「科研費の採択を目指して －申請書作成上の留意事項－」
		事務職員研修会 「本学の現状と課題」ほか、及び職員発表
		ＦＤ講演会 「ＦＤの義務化へ向けて（ＦＤとは何か、ＦＤの現状と課題）」
		教職員研修会 「私学を取り巻く環境、特に社会福祉関係学部の動向と経営強化の事例」

(4) 広報・学生募集事業

① 入学者安定確保のための広報活動の展開

2,500名の志願者目標を達成するために、受験情報誌等への掲出量を増やし資料請求者、オープンキャンパス来場者数等を増やす努力を行いましたが、志願者数2,100名と未達成となります。資料請求者、オープンキャパス来場者数等は目標数を達成していますが、そこから出願へ繋がっていきませんでした。彼らが他大学と比較検討するなかで、最終的に出願してもらえる対策を検討する必要があります。このような厳しい状況にもかかわらず、入学者数700名以上の目標は達成できました。

② 館友教員（卒業生）との懇談会の実施

前年度実施の三重、名古屋、大阪、広島、福岡に加え、今年度は静岡、奈良でも実施しました。２会場増えたことにより出席者数は60名から85名に増加しました。ただ、館友推薦の出願者数が前年度に比べて減少しましたので、告知方法を考える必要があります。

③ ホームページの充実

学内外に迅速に情報を提供する広報メディアの一つとして、より利用しやすく、信頼性のあるものに改善すべく、平成19年４月にホームページをリニューアルしました。配色・デザイン、構成等が改善されたほか、ページ上方に利用者別のメニューを設け、それぞれの利用者が必要な情報へたどりつきやすくなりました。また、皇學館の今を知ることができる「キャンパスダイアリー」のページを新たに設け、サイト内で最多アクセスを記録するなど、注目を浴びています。

④ 皇學館大学記念館竣功記念「茶室披き・講演会」

記念館は、本学の前身である神宮皇學館が、宇治から現在地である神田久志本町（倉田山）に大正７年に移転した際、翌８年に「本館」として移築されたものであります。昭和１５年に神宮皇學館大学となりましたが、昭和 21 年に廃校。敷地・校舎は一旦伊勢市立中学校に転用されたものの、その後、再び本学所有の建物として利用されてきました。昭和 47 年「創立九十周年・再興十周年」の記念事業の一つとして本館を「記念館」として保存することを企画し、昭和 47 年 10 月 23 日に現在の第 2 駐車場あたりに移築、改修し、記念館兼祭式教室として使用してきましたが、耐震上の問題から再び移築、改修して平成１９年１２月に竣功しました。

神宮皇學館時代の遺構として卒業生や本学関係者にとって忘れがたい存在である記念館は、正面玄関の車寄せに配された美しい曲線を描く唐破風屋根、堂々とした和の趣きを漂わせながらも、ガラス窓を組み合わせるなど洋風の要素をうまく馴染ませ、柱などを再利用し、大正期の建築様式をそのまま残しました。館内には、旧館長室、貴賓室を復元、新たに京都東山の土井家から茶室を譲り受け、移築時に寄棟茅葺きから入母屋柿板葺きに変更しましたが、小間の茶室様式は受け継ぎ、裏千家千玄室大宗匠に「日月庵」と命名していただいた茶室、他にも 11 畳と６畳の茶室、ホールも設けました。平成 20 年 1 月 25 日に、裏千家千玄室大宗匠をお招きし、清々しい雰囲気の中、茶室披きが行われました。記念館は、日本の伝統文化や精神を教育する場として、平成 20 年度カリキュラムから導入されました、「日本の心と技」において茶道や華道などで利用され、本学独自の学生教育の一環として発信していくことが期待されております。

茶室披きの後、裏千家千玄室大宗匠による記念講演会が開催され、学生や学校関係者、一般市民約千名を対象に、茶道において一碗の茶を回し飲みする作法に触れ、ひとつのものを皆で分け合う平等の精神を大切にすれば、世界平和に繋がり、また、経済を支えているのは文化であり、一期一会、文武両道など日本人が古来より受け継いできた和の心を忘れずに日々精進することを熱く語られました。

⑤ 教育講演会の実施

平成20年4月に教育学部教育学科を増設し、３学部体制となる改組を記念して教育講演会を開催しました。講師に市村真一氏（経済学博士、京都大学名誉教授）を迎えて、講演テーマ「教育基本法の改正と教育者の姿勢」について、9月29日（土）四日市都ホテルを

会場に、三重県内の教育関係者を中心に約200名の皆様にお集まりいただき、約90分にわたり示唆に富んだお話を伺いました。来年度以降も、教育講演会を引き続き開催する予定です。

(5) 就職支援・キャリア開発事業

① 就職支援・キャリア開発支援

(ｱ) 進路支援セミナー

就職課では、卒業生の「早期離職の防止」と「社会での活躍」を目標に、学年ごとに段階的なセミナーを開催しています。１年次から３年次の前半までは、就職意識の醸成や進路選択に関するセミナーを、３年次の後半には本格的な就職活動に備え、エントリーシート･筆記試験･面接の対策や業界研究などの実践的なセミナーを開催しています。また、学生個々の就職に関する疑問や不安を解消するため、2～4年次に個別面談を数回実施し、就職ミスマッチの防止に努めています。

(ｲ) 各種対策講座

企業、公務員、教員、幼稚園、保育士、社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験の対策講座を実施しています。このように対策講座を職業別で開講することにより、高い採用者数・合格者数を上げています。また、公務員試験対策講座においては、公務員試験専門学校講師を招き学内でダブルスークールを可能にしています。

(ｳ) YES-プログラムの実施

社会福祉学部では、就職先の各事業所が学生の就職に関して特に重視している「コミュニケーション能力」「職業人意識」「ビジネスマナー」「基礎学力」といった就職基礎能力の修得を支援する一環として、２年次生を主対象として厚生労働省が推進するYESプログラム（若年者就職基礎能力支援事業）を活用しています。このように早期から職業意識をもたせることにより、受講者からは就職活動をスムーズに取り組めたという評価を得ており、実施目標は達成されていると判断しております。

(ｴ) スキルアップのフォロー

資格取得のサポートとして、情報処理（Microsoft Office Specialist･Expert検定）、英検・TOEIC、住環境コーディネーター2級、医療事務、介護事務、ホームヘルパー2級の資格支援講座を開講しています。

② 学生のトータルサポートの実施

就職委員会を中心に就職意欲の高揚を促すための支援スケジュールの充実、求人開拓については、「全学一体となっての取り組み推進」、「求人情報の積極的な入手」、「学生・父母・館友との連携」及び「地域情報の収集」、など積極的に展開しています。

(6) 大学研究事業

① 国内外派遣研究員制度への支援

平成19年度において、派遣研究員制度による教員の派遣実績は３名です。

内容は下表のとおりです。

所属	派遣先	派遣期間
文学部	奈良女子大学	平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日
文学部	東京大学	平成 19 年 5 月 1 日～平成 19 年 7 月 31 日
社会福祉学部	ﾊｰｳﾞｧｰﾄﾞ大学（ｱﾒﾘｶ）	平成 19 年 9 月 5 日～平成 20 年 9 月 4 日

② 國學院大學との教育・学術研究交流

平成 18 年４月に締結された「皇學館大学と國學院大學との教育・学術研究交流」協定の具体的方策について協議され、本学神道学科と國學院大學神道文化学部の間で、夏期集中講義において相互に教員を交換派遣することが決定されました。

(7) 国際交流

① 中国社会科学院日本研究所及び、河南大学との交流

中国社会科学院日本研究所より所員２名、河南大学からは教員２名を客員研究員として受け入れました。また、本学社会福祉学部と中国社会科学院日本研究所との間で共同研究中の「アジア的福祉文化の地平を求めて-日本と中国の地域と家族の福祉課題について-」が、平成 20 年度「二国間交流事業共同研究-中国との共同研究(CASS)-」(独立行政法人学術振興会)の補助事業に採択されました。また夏季には、河南大学へ短期語学研修生として、文学部学生３名を派遣しました。

② 英語圏の大学・研究機関等との交流

平成19年４月５日に英国・ノーサンプトン大学と学術交流協定を締結しました。それを踏まえて夏季には、第１回短期語学研修生として、文学部学生11名、社会福祉学部学生７名を派遣しました。

(8) 学生活動支援事業

① 学生寮の充実

本学には、現在文学部教育寮として精華寮（男子寮：232 名収容）、貞明寮（女子寮：154 名収容）の 2 寮があり、寝食を共にすることで培うたくさんの人々とのつながりや、様々な行事を通しての「建学の精神」の継承など、全人的な教育が行われています。これらの学生寮の長所や利点を継承し、学生寮のより一層の充実を目指すことを目標としました。

この目標を達成するために、平成 20 年度から、文学部学生とともに教育学部学生からも寮生を受け入れることとなったこの機会に、これまでの学生寮の運営体制を再検討し、新たな体制を構築してさらに充実した学生寮生活を送れるようにします。そのための準備

期間として平成 19 年度は、新体制の中心となる寮長や寮母の予定者を採用し、さらに学生寮運営委員会と連係を図り、新体制の運営方法を検討して平成 20 年度からの運営に備えました。

② 保護者組織「萼の会」との連携強化

保護者組織である「萼の会」との連携を深め、全国で行う「教育懇談会」等を通じて保護者の方々と今まで以上に情報を交換し、学生のあらゆる面を理解した上で、総合的に充実した指導を目指すために、平成 19 年度においては、萼の会主催の新たな企画として、大学祭開催期間中に就職説明会を開催し、萼の会総会を上回る多数の参加者を得ました。

また、学生募集面において萼の会と卒業生の会である館友会を有機的に連携させ、地区別教育懇談会をさらに充実したものとすることが決められ、平成 20 年度実施に向けて検討が開始されました。

③ 地域社会と学生の交流

(ｱ)「お木曳き」行事への参加

平成 25 年に行われる第 62 回式年遷宮に向け、前年度に引き続き「一日神領民」として学生、保護者、教職員、卒業生など参加しました。今回は全学挙げての参加となり関係者約 1,000 名が奉仕させていただきました。この行事への参加は、本学園の建学の精神はもとより、神宮に対する崇敬の念を深める機会でもあり、人と神道との関わりを、身をもって学ぶ重要な機会となりました。本学ならではの特色ある教育活動を展開し、お木曳き行事を支える地域住民との交流を図ることができました。

(ｲ)神宮神嘗祭初穂曳への参加

「日本の神々を祀る神道を基盤として、皇室や神宮を崇め、祖先を敬い、国を愛し、歴史・伝統・文化を尊ぶ心を育む。」という建学の精神に基づく教育目的を以って、文学部の 1 年生が「地域文化論」の授業の一環（体験型授業）として参加しました。その他にも関係者が参加し、総勢 600 名の奉曳となりました。平成 20 年度以降は引き続き「伊勢学」の体験型授業の一環として、平成 19 年度同様に 1 年生が参加する予定です。

(ｳ)地域の伝統芸能と大学祭

倉陵祭（文学部大学祭）において、地元伊勢市一色町に約 450 年前から伝わる一色能の上演が、一色能保存会の方々の参加・協力を得て行われました。これは大学の目標である「わが国の歴史・伝統を継承・究明・応用して社会の要請に応える」一環として計画されたものです。当日は本学記念講堂において能の幽玄な舞が披露され、観覧した学生をはじめ市民の方々に伝統芸能を堪能していただくことができました。

(ｴ)学生プロジェクトへの支援

地域社会の活性化と交流及び、地域社会に根差した学園作りを目指すため、地元伊勢市で毎年開催される伊勢おおまつりに「皇學館大学よさこいパレード」として、平成 19 年 10 月 13 日に学生と職員約 70 名が共同で参加しました。今後も「地域社会との連携プロジェクト」を学生から募集し、学生が活躍できる場を提供し、積極的な支援を

展開していきます。

また、社会福祉学部では、社会福祉学部学生委員会が主催し、学生が活躍できる機会の提供と、その成果の公表による他の学生への啓蒙を目的として、学生に対して学内プロジェクトを募集しました。

テーマを「学内活性化プロジェクト」と「地域社会との連携プロジェクト」として募集した結果、のべ６件の申請があり、提出書類とプレゼンテーションによる審査の結果、「学内活性化プロジェクト」として、(a) 堆肥作りプロジェクト、(b) 学生ふるさとフェスタ、「地域との連携プロジェクト」として、(c) 名張の地域文化から未来の福祉へ、(d) 春日丘夏祭り、(e) 休み処おきつも、の５件を採択し、活動に対する支援を行いました。

学生が中心となり企画の立案・予算申請・実行を行うことを通じ、「学び」につながる貴重な経験を得させることができました。「学内活性化プロジェクト」は、学生が主体となって、多くの学生が関わり、社会福祉学部の学生を活気づけるような企画でした。「地域との連携プロジェクト」は、学生と教職員が協力して、地域に貢献する企画、連携あるいは共同で進めていくことのできる企画であり、学生と地域住民の交流を通じて、お互いの相互理解を図ることができました。

参加した学生たちは、今、何をすべきか考える力を身につけ、また、自ら進んで行動する力、地域の方々や参加学生を束ねる力を身につけ、将来リーダーシップを発揮できるよう成長することができました。

(9) 開かれた大学活動に関する主な事業

① 文学部

伊勢市と「運動効果検証及びルート検証業務委託」について契約が交わされました。内容は、ウォーキングルートの作成と、そのルートが持つ生理学的作用の検証、またウォーキングによる健康への効果の検証を実施します。

② 社会福祉学部

名張市と「地域福祉推進に関する調査研究事業」および「グリーンツーリズムに関する調査研究事業」について、提携を結びました。それらの内容はそれぞれ、「地域福祉文化の推進とまちづくりの調査研究」と「名張市の農産物等、地域資源を活用したグリーンツーリズムを効果的に推進するための方策の研究」となっています。

高等学校・中学校部門

(1) 高等学校・中学校入学者目標定員の確保（高400 人 中70 人 計470 人）

① 生徒募集対策改善と充実を図る。

入試説明会等の機会を活用し、進学実績の向上及び、部活動充実と活性化の具体策を明示しました。

平成 20 年度　入学手続者数

	募集定員（名）	手続き者数（名）	充足率（%）
高 等 学 校	３４５	４２１	１２２
中　学　校	７０	６４	９１.4

(ｱ)中学校対象学校説明会を、７月及び９月の２度開催、又塾対象学校説明会を、９月に開催し、高校・中学の教育内容及び入試に関しての説明を行いました。

(ｲ)チューター制を発足させ、特別室の整備を行い、放課後の課外学習の意欲を高めました。

② 学校情報を積極的に公開し、教育方針・教育内容の理解度を高める。

シラバスの配布は例年通り行いました。生徒・保護者満足度調査も例年通りに実施しました。しかし、アンケート内容の精査と再検討が必要。「学校通信」は、全体について「保護者会報」を年間２回発行し、具体的な学年の情報発信については学年通信（随時発行）で保護者に配布しました。

(2) ６年制一貫教育の充実と進学実績の向上

① ６年制一貫教育のメリットを生かした教育内容の充実のため、主要３教科（英・数・国）におけるα、β講座（習熟度講座）を実施し、さらに初期～中期（１～４学年）における先取り教育の充実実施を行いました。

② 進学実績向上の目標を、国公立大学合格者 15 名（５年後の目標 30 名）とし指導してきましたが、国立 6 名公立 2 名の合計８名の結果となりました。

(3) 高等学校教育の活性化と魅力化（文武両道教育）

教育内容充実のため、個別指導、学習合宿の実施、環境整備を図りました。学習合宿は、休日に皇學館会館に於いて各学年で数回実施しました。授業形式に加えて個別指導をも導入し、徹底的指導を実施しました。そのほか、選択教室を利用した放課後学習及び教員室前廊下に机を置き、各教科の教員が生徒の自主学習に応える机学習、更に、少人数で利用できるチューター室を整え、自主的に学習する場を設定しました。

又、特進コース・進学コースの進学実績向上の目標を定め、６年制を含め国公立合格者の目標を、平成 19 年度 20 名と設定し指導に力を入れ、その結果 18 名の合格者を出しました。

更に特別指定強化クラブとして、吹奏楽、野球、陸上、柔道、剣道、バレー、バスケット、新体操、卓球を指定し、活動の強化を推進し他結果、柔道部、剣道部、バスケットボール部、弓道部、卓球部、新体操部、陸上部が全国大会出場を果たし、目覚しい活躍をしました。

学習面と部活動双方の両立をうたう「文武両道」教育は、各コースを通じての理想として掲げてきました。

(4) 「建学の精神」の徹底

高等学校関係教員で「建学の精神」解説集を完成させ、法人全体（高校・中学・大学）の教職員に配布しました。今後、それに基づく教職員研修を来年度実施することになりました。

(5) 教職員の資質向上と情報の共有化

① 教員の指導力向上に努め、研究授業、公開授業の実施、相互授業参観の実施、生徒に対する個別指導力の養成強化、研修会参加の促進、高大連携の促進を行いました。

② 教員の意欲ベクトルを統一し、教育の相乗効果を図り、教科会議、学年会議、分掌会議を促進する一方で、分掌を超えた協働作業を展開し、各教員間の意志疎通を図るとともに、教育に対する教員の資質を向上させ、生徒指導への充実を促進しました。

③ 人権教育の充実のため、建学の精神に則った人権教育の展開を図りました。

④ 危機管理マニュアルの内容改善と周知徹底を行い、学校施設、設備の安全を点検し、部活動、学校行事、実験実習における安全指導を強化し、さらに AED 取り扱い講習会の実施、地震災害マニュアルを改善し配布しました。

施設・設備事業

(1) 皇學館大学記念館移築工事　　総工費　３億２百万円

旧神宮皇學館大學本館であった記念館は、昨年、「登録有形文化財」として文化庁から登録をうけたが、老朽化と耐震強度不足のため、正門から上がってきた旧職員駐車場跡に移築し永久保存した。正面玄関は解体し腐蝕部分を修理・復元した唐破風銅版葺きの大屋根を擁し、母屋は木造瓦葺平屋建て、建築面積 551.5 ㎡、床面積 455 ㎡となりました。

館内には、茶室２室と水屋及び台所、ホール、本格的な茶室「日月庵」が設けられ、茶道・能楽などの日本の伝統文化を継承する施設として再び使用されることとなりました。

また、記念館として相応しい旧神宮皇學館大學に関する歴史資料を展示する展示室や、旧館長室を復元するなど当時の面影を残した建築物として開館しました。

(2) 皇學館会館個室改修工事　工費１千３百万円

教職員・学生等の教育研究・福利厚生施設である皇學館会館は、ゲストルームの利用率が高いため、東側１階の一部をゲストルーム２室（バス・トイレ付）に改修し、また学生の合宿用として新たに和室１室（１２畳）を設けた。これにより、ゲストルームは５室となり、一般居室及び寄宿室はあわせて６９室となりました。

(3) 実習支援室整備　工費１千万円

名張キャンパス本部管理棟ホールにあった実習支援室が、事務業務を行う上で手狭になったことから、本部管理棟１階及び校用車駐車場（車庫）を改修し、約７８㎡の実習支援室を新たに設けました。これにより、介護実習対応をはじめ、学生への実習支援の一元化を図りました。なお、旧実習支援室は学習支援室となりました。

(4) 高等学校・中学校の施設整備

① 旧武道場解体撤去　工費１千３百万円

新武道場の使用開始に伴い、耐震上問題のあった旧武道場及び倉庫の解体工事を行い、跡地を整備し、教職員・生徒の一時避難場所として指定しました。また、その一部を生徒用の自転車約 100 台が収容できる駐輪場として整備しました。

② 第二グラウンド整備　工費１千４百万円

武道場の新築に伴い、第二グラウンドが西に約１０ｍ移動したため、従来の暗渠排水の設備が内野の黒土よりずれが生じたため、新たに排水管を設置しました。また、第三体育館側のネットの高さを 15mに上げ、照明器具の復旧と解体保管されていたピッチング用ネットの復旧と照明器具の設置も行いました。

③ 中学校保健室整備　工費３百万円

現保健室が狭隘のため、旧理科準備室と隣り合う旧保健室を合わせて８０㎡の保健室を新たに設けた。保健室内には、心のケアを行う和室を設け、個別指導ができるよう工夫しました。

(5) 情報環境の基盤整備

平成19年度は、情報環境充実による学生サービス向上を目指した第２次情報整備計画の中核の年として、大学及び高校の情報処理教室整備を始めとし、多様化・大容量化する情報に対応するためネットワークの充実を図り、教育学部新設に備えた情報処理システムの機能追加・変更などを実施しました。また、中学の校舎新設に伴うマルチメディア教室の整備に合わせ、高校・中学のネットワークを整備し信頼性の向上を図りました。

管理運営に関する主な事業

(1) 新給与制度の適用開始

国家公務員の給料表改訂にあわせて、これまでの1号俸を４分割し、勤務実績や財政状況に応じて、きめ細かい昇給が可能となる本学独自の給料表を作成し適用を開始しました。

また、新たに教員組織に位置づけられた「助教」のうち、授業を担当する者に授業担当手当を支給できるよう給与細則を改正しました。

(2) 人事制度の整備

多様な雇用制度による教育の充実・活性化のため、新たに任期を定めた教員任用制度として、「特命教員制度」及び「特別招聘教授制度」を規程化し、平成20年度から導入することを決定しました。

Ⅲ. 財務の概要

平成 19 年度の決算の状況について、その概要を報告いたします。平成 19 年度においては、教育学部開設に係る収入・支出を含めて計上しています。

１．本学園の財務状況の概要（資金収支計算書）

平成 19 年度の「諸活動に対応するすべての現金・預金の収入及び支出の内容」と「現金・預金の収入及び支出の顛末」を明らかに示した「資金収支計算書」について報告いたします。資金収入合計及び資金支出合計は、83 億 3 千 6 百万円で、平成 20 年度に繰り越す現金・預金（次年度繰越支払資金）は、25 億 1 千 9 百万円となりました。次に資金収入及び資金支出の主な科目について説明いたします。

(1) 資金収入

① **学生生徒等納付金収入**は、37 億 4 千 8 百万円となりました。授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金、教育充実費等が主な収入であります。学生生徒等納付金は経済情勢等を勘案し、平成 12 年度から据え置いています。

② **手数料収入**は、8 千 7 百万円となりました。入学検定料 7 千 6 百万円が主な収入であります。

③ **寄付金収入**は、2 億 2 千万円となりました。皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業寄付金が 1 億 3 千 9 百万円、その他が 8 千 1 百万円であります。

④ **補助金収入**は、7 億 9 千 8 百万円となりました。国庫補助金が 3 億 8 千 7 百万円、地方公共団体補助金が 4 億 1 千万円であります。

⑤ **前受金収入**は、8 億 6 百万円となりました。平成 20 年度入学者は、大学院 20 人、神道学専攻科 32 人、大学学部 719 人、高等学校 421 人、中学校 64 人、合計 1,256 人分の学生生徒等納付金の前受け収入が主なものであります。

⑥ **その他の収入**は、4 億 6 千 1 百万円となりました。これは、学園財政調整引当特定預金を取り崩し記念館移築工事資金に充当したことと、前年度未収入金収入が主なものであります。

(2) 資金支出

① **人件費支出**は、29 億 5 千 8 百万円となりました。教員人件費、職員人件費、退職金等が主な支出であります。

② **教育研究経費支出**は、9 億 9 千万円となりました。大学・高等学校・中学校の教育研究諸活動に必要な消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、報酬委託手数料、賃借料、保守管理費等が主な支出であります。

③ **管理経費支出**は、4 億 3 千 1 百万円となりました。学生募集経費や法人の諸活動及び大学・高等学校・中学校の管理運営に必要な諸経費等が主な支出であります。

④ **借入金等利息・返済支出**は、8 千 1 百万円となりました。校舎建設資金に充当するため日本私立学校振興・共済事業団から借り入れた借入金の利息及び元金の返済支出であります。

平成 19 年度末借入残高は、5 億 5 千 6 百万円となっております。

⑤ **施設関係支出**は、土地・建物・構築物等の取得で 3 億 4 千 5 百万円となりました。主な内容は、隣接地土地購入、記念館移築工事等に伴うものであります。

⑥ **設備関係支出**は、教育研究用及びその他の機器備品並びに図書の取得で 1 億 5 千 2 百万円となりました。主な内容は、記念館の機器備品の整備費や図書等の購入費であります。

⑦ **資産運用支出**は、8 億 5 千 7 百万円となりました。これは、皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業として文学部教育研究棟の建築資金（第 2 号基本金計画）、財政基盤強化のため、退職給与引当金等の各種引当特定資産を積立てたことによる繰入支出が主なものであります。

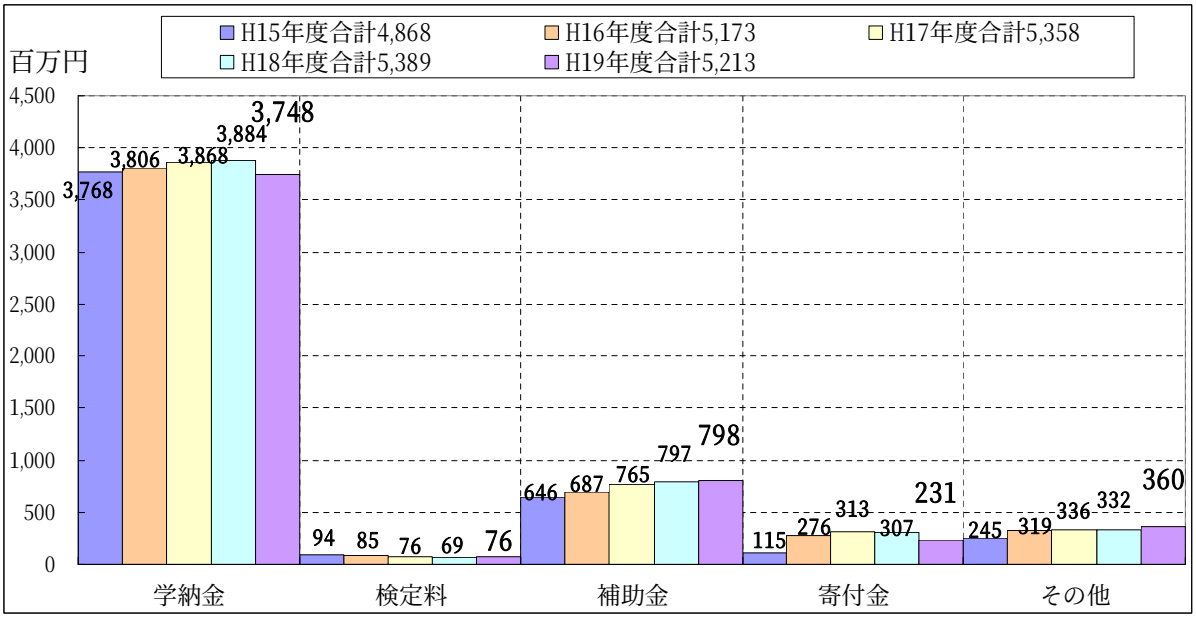
2．本学園の経営状況の概要（消費収支計算書）

学校法人の経営が健全であるかどうかを示す「消費収支計算書」について経年比較を通して報告いたします。この「消費収支計算書」は、学園の経営状況を表し、平成 19 年度における消費収支の均衡状況とその内容を明らかにするもので、企業会計においての損益計算書にあたるものです。

(1) 帰属収入

帰属収入は、学校法人に帰属する負債とならない収入です。平成 19 年度は、総額 52 億 1 千 3 百万円で平成 15 年度から 18 年度までの 4 ヵ年平均並みとなりました。基本金組入額は、4 億 1 千 5 百万円となり、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入は、47 億 9 千 7 百万円となりました。

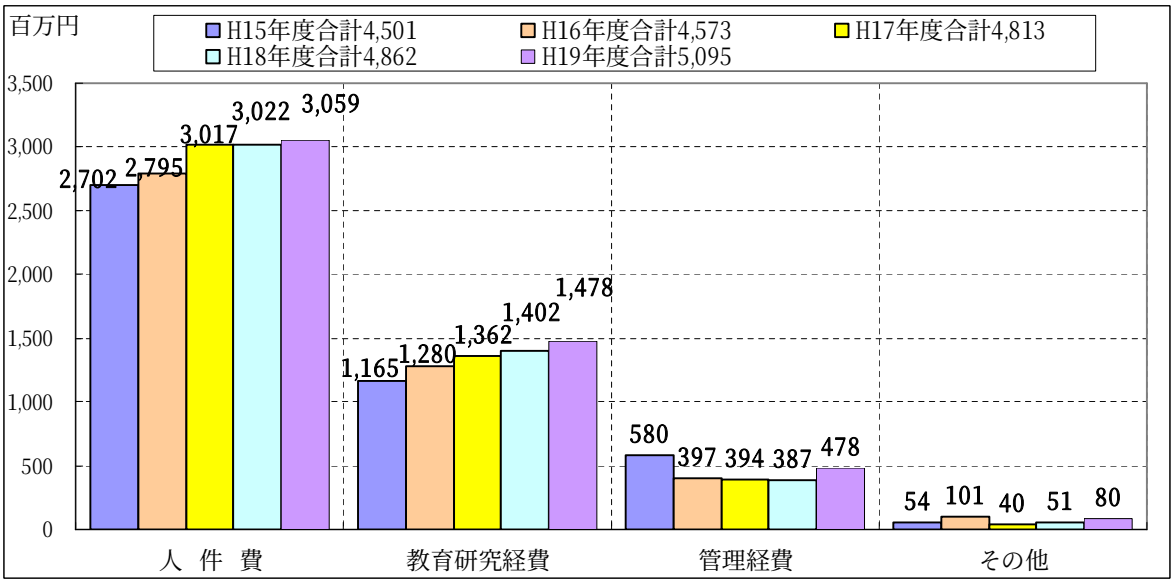
《帰属収入》



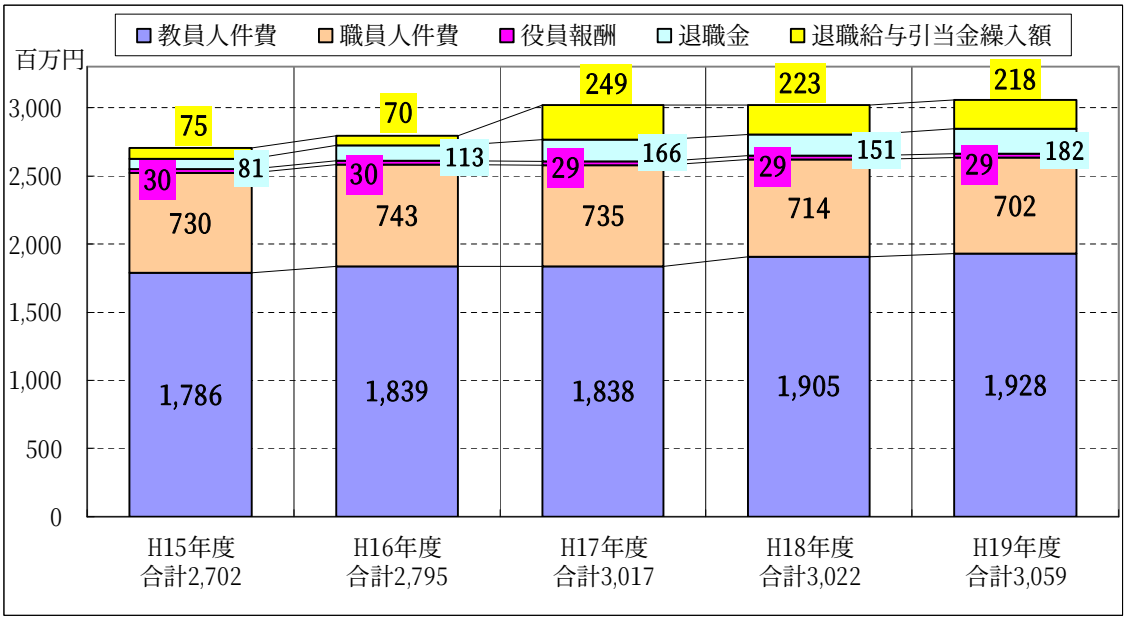
(2) 消費支出

消費支出は、教職員の人件費、法人・大学・高等学校・中学校の教育研究活動及び管理運営に必要な諸経費が主なものです。平成 19 年度は、総額 50 億 9 千 5 百万円となりました。

《消費支出》



《うち人件費支出》



(3) 帰属収支差額

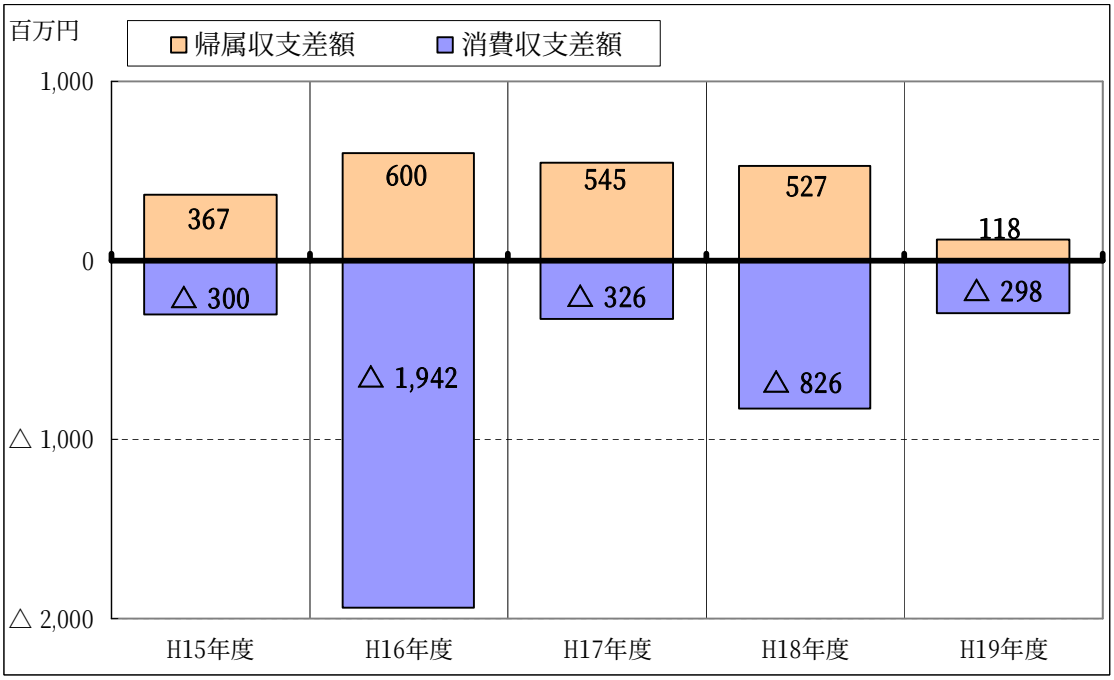
帰属収支差額は、帰属収入から消費支出を差し引いて計算し、学校法人全体の収支状況の健全性を評価・分析する上で重要な指標です。また、本差額は、自己資金の充実度を表し、プラスであれば経営が健全であると見なすことができます。

平成 19 年度の帰属収支差額は 1 億 1 千 8 百万円のプラスとなりました。

(4) 消費収支差額

消費収支差額は、消費収入（帰属収入―基本金組入額）から消費支出を差し引いて計算します。平成 19 年度の消費収支差額は、2 億 9 千 8 百万円の支出超過で、翌年度繰越消費支出超過額は 24 億 9 千 1 百万となりました。

《帰属収支差額及び消費収支差額》



3．本学園の財政状況の概要（貸借対照表）

本学の財政状態を明示した「平成 20 年 3 月 31 日現在の貸借対照表」について報告いたします。

(1) 資産の部

① **有形固定資産**は、147 億 6 千万円となりました。隣接地土地購入、記念館移築工事等に伴う資産の増加分と減価償却額及び旧建物等取壊の減少分を差し引いた資産の変化により、平成 18 年度に比し 8 千 8 百万円減少しました。今後は、皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業として文学部教育研究棟の建築が計画されていますので増加する予定となっております。

② **その他の固定資産**は、29 億 8 千 4 百万円となりました。予定どおり、将来の戦略的投資及び財政基盤強化のため各種特定資産等を積み立て、一方、記念館移築工事資金として 2 億 5 千万円の特定資産を取り崩しましたので、平成 18 年度に比し 5 億 2 千 6 百万円増加しました。

③ **流動資産**は、36 億 4 千 9 百万円となりました。支払資金としての現金預金と各種積立特定預金等で構成される本資産は、平成 18 年度に比し 2 億 1 千 4 百万円減少しました。

④ **資産の部合計**は、有形固定資産とその他の固定資産、さらに流動資産を加えた資産総額は 213 億 9 千 3 百万円となり、平成 18 年度に比し 2 億 2 千 3 百万円増加しました。

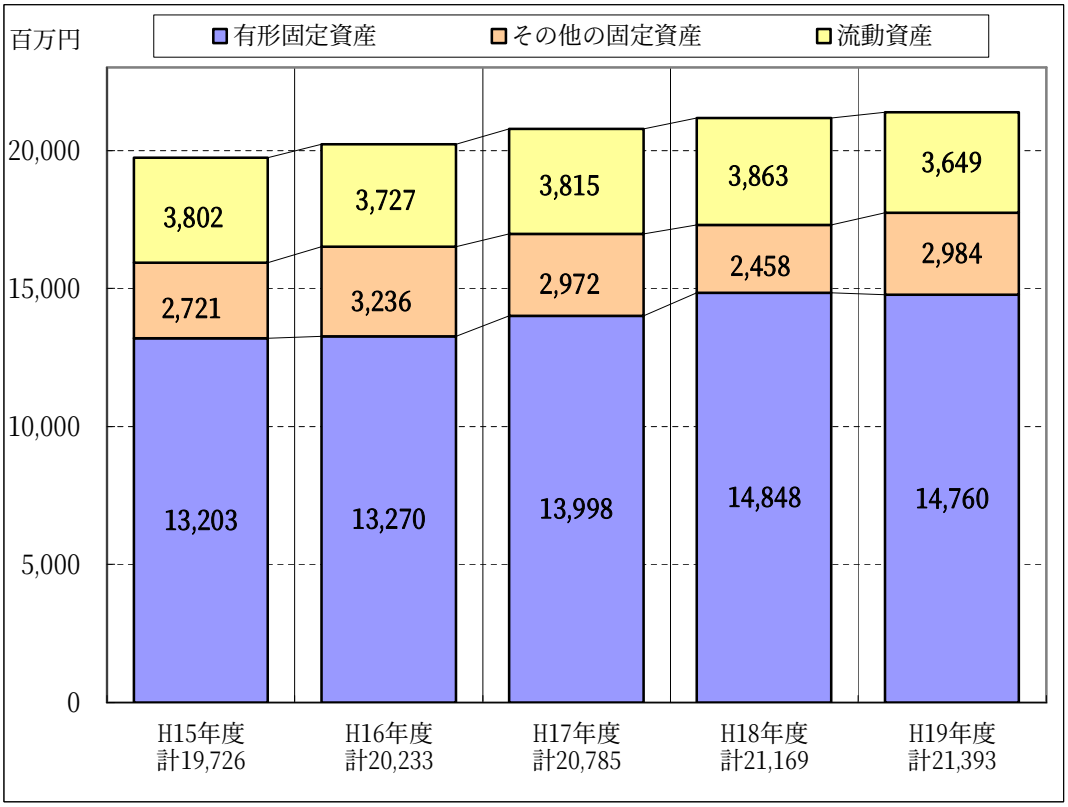
(2) **負債の部**

固定負債と**流動負債**を加えた負債総額は、25 億 1 千 7 百万円となりました。なお、自己資金により順調に借入金を返済しています。

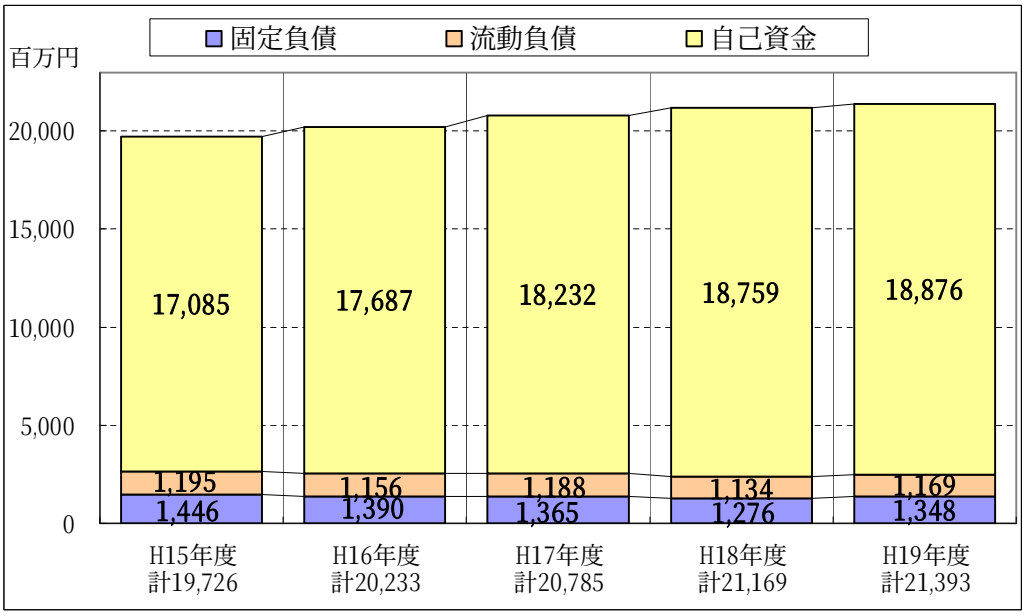
(3) **基本金の部**

基本金は、当年度 4 億 1 千 5 百万円を組み入れ 213 億 6 千 7 百万円となりました。これにより**自己資金(基本金合計 213 億 6 千 7 百万円＋消費収支差額合計△24 億 9 千 1 百万円)**は、188 億 7 千 6 百万円となり、平成 18 年度に比し、1 億 1 千 8 百万円増加しました。これは、前述の帰属収支差額が 1 億 1 千 8 百万円収入超過になったことによります。

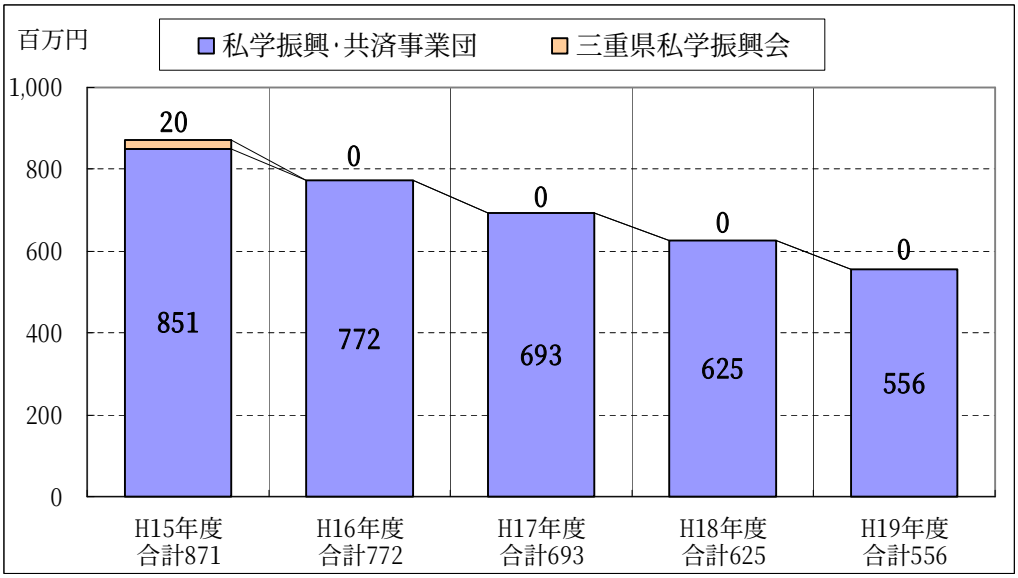
《資産の部》



《負債の部》


百万円
固定負債
流動負債
自己資金
20,000
15,000
10,000
5,000
0
17,085
17,687
18,232
18,759
18,876
1,195
1,156
1,188
1,134
1,169
1,446
1,390
1,365
1,276
1,348
H15年度
計19,726
H16年度
計20,233
H17年度
計20,785
H18年度
計21,169
H19年度
計21,393

《借入金残高》


百万円
私学振興･共済事業団
三重県私学振興会
1,000
800
600
400
200
0
20
0
0
0
0
851
772
693
625
556
H15年度
合計871
H16年度
合計772
H17年度
合計693
H18年度
合計625
H19年度
合計556